

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2019～2020年度クラブ目標

『共に手をつなごう
ロータリーのもとで』

会長 中目 公英
幹事 兼子 聡



ロータリーは
世界をつなぐ

2019～2020年度国際ロータリーテーマ



第1618回例会

令和2年2月6日 (12:30～13:30)

○ソング

- 国歌 (君が代)
- 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 中目公英会長 (榊朝日ラバー代表取締役社長渡邊陽一郎様、白河西ロータリークラブへようこそいらっしゃいました。卓話をありがとうございます。立春となりましたが、だるま市まではまだ寒いので、皆様、お体には十分に気をつけて下さい。)
- 永野文雄会員 (ゲストの朝日ラバー渡邊陽一郎社長様、ようこそ。卓話ありがとうございます。)
- 佐藤清作会員 (今月は誕生の月です。お祝いありがとうございます。)
- 山口治会員 (さきほど、結婚記念日の人で名前を呼ばれて、明日結婚記念日であることを思い出しました。ありがとうございます。)
- 渡部則也会員 (誕生日のお祝を頂き、ありがとうございます。今年はインフルエンザが少なくとてもよいのですが、新型コロナウイルス感染症が今後広がらないことを祈っております。)
- 齋藤孝弘会員 (お祝いありがとうございます。渡邊社長講話ありがとうございました。近々にご一献おさそいお待ちしております。)

▶第1618回例会出席状況 (R2年2月6日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	44名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	58名
Ⓒ ①の出席者数	25名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	8名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	33名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	52
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	63.46%

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

中目公英会長



2月初めの何かと忙しい中、皆さん方には今日も例会に出席をいただきまして誠にありがとうございます。まず初めに、本日のお客様をご紹介します。株式会社朝日ラバー代表取締役社長の渡邊陽一郎様です。渡邊社長様にはプログラムの中で卓話でお話をいただくことになっております。どうぞひとつよろしくお話をいたします。今日の渡邊社長様からのお話は、職業奉仕委員会の担当委員会、ロータリーでいうと実は1月の月間テーマのロータリーのテーマだったのですが、少しずれまして2月に入ってとなりました。そのようなことでいろいろと見ておりましたところ、皆様方にお伝えしたほうがいいんじゃないかと思ひまして、今日皆様方のテーブルにこのような「ロータリーの樹」というペーパーをお渡しをしております。ロータリーの諸活動、いろいろな活動というものを一つの木に例えたものであります。確認のためにこの「ロータリーの樹」の説明をさせていただきます。木のもともとの栄養になる部分はロータリーの奉仕の理想を、今日先程歌を歌いましたが、その下にあるのはロータリーの2つのモットー、標語になります。「超我の奉仕」と、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」この「最も多く奉仕する者、最も多く報いられる」が、職業奉仕上の栄養源になっているというふうなことであります。その上に五大奉仕部門の一つのクラブ奉仕。クラブ内の会員共々親睦をし、会員相互の助け合い扶助活動をいたしましようということです。その上に「ロータリーの綱領」と「4つのテスト」があります。この資料は変革する現在のロータリーにおきましてちょっと前の資料なものですから、「ロータリーの綱領」という単語を使っていますが、現在「ロータリーの綱領」というのはありませんで、「ロータリーの目的」となっております。その点でちょっと最新情報でありませ

んが、そのクラブ奉仕の上にその全体を導く一つの指針として「ロータリーの目的」があり、「4つのテスト」があるというわけであります。ロータリーは「I serve.」ということで代表されるように、自分たちの職業を通じて世の中に対してサービス、奉仕をするというふうな根本的な目標になっていきますから、クラブ奉仕の上に根から生えた太い幹として職業奉仕があるというわけであります。「I serve.」としての職業奉仕ばかりでなく、現在のロータリーはクラブとしてもこの職業奉仕を通じて世の中のためにいろいろな奉仕をしましょうという活動をしております。そのために五大奉仕部門の、国際奉仕、青少年奉仕、社会奉仕があり、さらにはロータリー財団。ここに日本ロータリーの場合は米山奨学も入ってきますが、このような形で枝が伸び葉が茂るといのがロータリーの諸活動の位置づけになっているというわけであります。本日の渡邊社長さんからのお話は、その根幹となす職業奉仕に関するお話でありますから、皆さん一緒に話を伺いたいと思ひます。以上、簡単ではありますが「ロータリーの樹」についての説明をさせていただいて、会長の時間に代えさせていただきます。ひとつ今日の例会、よろしくお願ひいたします。

■幹事報告

兼子聡幹事

- 一般社団法人ロータリーの友事務所：ロータリー手帳お買い上げのお願い
- ガバナー 芳賀裕：RLIパート1終了証の送付について、2020東京オリンピック聖火ランナー情報について
- 白河RC：週報
- 県南分区ガバナー事務所：IM開催にあたって
- 新橋演舞場：公演のご案内

■RLIパート1の終了賞

吉野敬之会員、堀田一彦会員



■委員会報告

○雑誌広報委員会

前原俊治委員



雑誌広報委員の前原でございます。2月の「ロータリーの友」のご紹介をしたいと思います。前回、私

ロータリーの友の紹介した時に、会長のほうから時間が長いという指摘がありましたので、今日は簡潔に終わりたいというふうに思っております。まず、横ページの7ページを開いていただければと思います。そちらのほうに特集として「ようこそ、島へ」という記事が載っております。日本にはいくつかの島のロータリークラブがあるということで、そのうちの6つのクラブが紹介されております。そのクラブの活動内容とか、島の魅力とかがいっぱい載っております。機会があったらこういう島のロータリークラブのほうにメーキャップするのもいいのかなというふうに思っております。続きまして、縦ページの9ページを開いていただければと思います。「この人訪ねて」という記事が載っております。今月は、大宮シティロータリークラブの那須さんという方が紹介されております。那須さんという方は、「トーテックス」という会社を営んでいるそうです。こちらのほうでは気象観測用のゴム気球を作っているということでございます。今、世界各国に気象衛星が飛んでおります。それで天気予報というのは気象衛星のデータを基調にして予報が出されているのかなと私も思ってたのですが、実際はそういうことではなくて気象衛星の観測というのは自主的なものであって気球によるデータが気象

のメインになっているということで書いてあります。そして、この気球を作っている会社が世界で5社しかないということでございます。そして、その「トーテックス」という所が世界のシェアの50パーセントを占めているということでございます。世界にはいろいろな会社がありまして、こういうあまり名前が知られていない会社でも、非常にユニークな特殊な技能がある会社も我々が知らないだけでいろいろな会社があるもんだなということで、非常に面白い記事なので、そちらのほうも読んでいただければと思います。そういうことで、今日の私の紹介は簡潔に終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○親睦委員会

須藤正樹委員長

・結婚記念日

山口治会員、鈴木典雄会員

・誕生日

佐藤清作会員、渡部則也会員

齋藤孝弘会員、青木大会員



■本日のプログラム

職業奉仕担当例会

○職業奉仕委員会

小林義勝副委員長



皆さん、こんにちは。職業奉仕委員会、副委員長の小林です。本来ならば、先月職業奉仕担当月間だったんですが、諸般の事情で今月になりましたこととお詫びいたします。本日、お越しの方を皆さんにご紹介をさせていただきたいと思っております。「株式会社朝日ラバー」代表取締役社長、渡邊陽一

郎様でございます。渡邊社長にはこれから20分くらい卓話のほうをいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○株式会社朝日ラバー

代表取締役社長 渡邊陽一郎様



改めまして、「朝日ラバー」の渡邊です。本日はよろしく願いします。ここにこういう形でお話をさせていただききっかけは、藤田さんから是非ロータリークラブでということでお話いただきましてこの場となりました。本来、1月でいただいていたんですが、ちょっと私の都合で2月になっていますので、私の都合で2月に遅れたことだけ付け加えさせていただきたいなと思います。あと先程の「トーテック」さんのお話なんですが、たまたまその那須社長さん、埼玉で会社をされてまして私たまにお会いするんですが、とても実は面白い方でして気球を地上で作るんですけど、大体膨らませるのに1メートル半くらいの大きさの気球があるんだそうです。それを大体2万メートルから3万メートルくらいでパンと割れるように圧力を工夫して上げるんですが、そこに行くどうしても気圧が低くなって、気球の大きさが大体7メートルくらいまで膨張するのですが、それでもまだ膨らんでも割れないようにという設定をしながらこう打ち上げていくんだそうです。日本国内で一日2回上げるんですけど、一日で50個を使うんですね。ずいぶん使うんですね。それを世界中で5社でまかなっているそうで

すが、だいぶせめぎあいらしいんですけど、やっぱり日本の技術は昔から支えてる技術で非常に安心感があるということで、だいぶ世界も好評いただいているというふうにお話をお伺いしていたことがあります。すみません、こんな話ばかりしていると時間が皆さんのお約束の時間をなくしてしまいますので、さっそく今日のお話に入りたいと思います。地域貢献という演題でテーマいただきまして、今年の9月にたまたま郡山で「第一生命」さんで105周年記念がありまして、ちょっと20分と言われて話してきたものでしたから、その時は地域貢献だったのでそれをちょっともじってお話しさせていただいています。その時は私も初めての経験だったんですけど、目の前にセールスレディが400人いたんです。さすがに私こんなにもててどうするんだろうというくらい、ちょっと一人一人の目が非常に今でも恥ずかしく思い出せるくらいドキッと目でした。今日は非常にまた違った意味でドキッとしながらやらせていただきたいと思います。「朝日ラバー」なんですが、本社埼玉県さいたま市大宮に今あるんですが、もともと設立していった創業者の伊藤巖さんは本宮の蛇の鼻遊樂園という場所があるかと思うんですがその長男坊になります。家を継がなくて出て行っちゃったんですね。出て行った先で丁稚奉公したのがゴム屋ということで、その中で一緒に自分で会社を興そうとして三人衆というらしいんですけど、その中の一人で埼玉の川口という所に鋳物の街に工場を作ったというのが最初の会社を作ったきっかけになります。その後、いろいろ事業をありがたく繋いでいくことができて、故郷に錦をではありませんけど福島県に工場を持ってきたいということで、本社を大宮に、工場ができれば多分自分の地元で本宮とか二本松とかあっちのほう良かったんじゃないかと思うんですが、あの当時約30数年前なんですけど、土地を探していたところ今は亡くなってますけども泉崎の海上博之村長さんが工業誘致をやっている時代で、そこにということで作ったのが泉崎の福島工場ができた経緯になります。そうやってやってくうちに当然福島出身という会社なので全部工場は日本は



ここだけということやらせていただいております。白河地区で4つの工場を県南地区に進出させていただいています。前後してしまうんですがゴムというのは昔から3Kと言われる業界です。どうしても汚しきたない・きつい・きびしい。それで人を大事にしない。その人を大事にする中で技術を磨いていきなさいということを書いた社訓に書いてあります。社訓して弾性無限の挑戦。この地域には住友ゴムさんという有名なタイヤメーカーがいらっしゃいますけども巨大なメーカーさんですが、実はゴム材料日本の中で再利用して使用している割合の8割がタイヤです。そこにベルトだとか大物のゴム製品を足していきますと約9割が使われます。残り1割の材料を利用して我々みたいなゴムメーカーさんが点在しているというのがゴム業界になります。これは売り上げ比率なんですけど、左側の51.3パーセントがタイヤ、その他がタイヤ以外になるんですけど、我々が存在している理由はその他の製品という、その他のその他というような分類になるんですけど、その割合が41.6パーセントくらいです。大きい会社から中小のお客様までいろいろな方がいろいろな所で裏方として支えあっているというのがゴム屋さんの位置づけです。ですので、我々ずっと言われているのはゴムの使い道を広げなさいと。もっともっとゴムの可能性を世の中に見つけていきなさいということで、弾性無限への挑戦という言葉が自分たちの中では非常に大事な言葉として、今でもスローガンに使っているようになります。そうすることによってゴムの利用がどんどん広がってくと。広がっていくとそれを種にして、またいろいろな業種の方と一緒に仕事ができるようになる。その輪の広がりを作りなさいというのが社訓に込められている言葉だというふうに私も理解しています。そんなゴムメーカーさんがどんな工程でゴムを作っているのかというのを、先程ちょっと3Kみたいな話しましたが、簡単に写真撮ってきましたので説明させていただきます。ゴムの製造工程はまず原材料に味付けをする所から始まります。今、青い材料を写真で練っているんですが、ここでいろいろな材料をブレンドしていきます。

この2本のロールの間に材料を通すことによって均一にその材料が混ざるようになっていくことを行っていきます。ちなみに、練という言葉は食品の業界でいきますと、うどんは練るんですが蕎麦は打つです。実はうどんを練ると美味しいうどんを作れるんです。何回か食べたことがあります。蕎麦はぼそぼそ落ちてしまって残念ながら練れません。蕎麦は打つなんですね。そのように言葉というのは、いろんな業界違えど実は同じです。そのものを金型に材料を仕込みますので、その金型の必要な大きさや厚さに合わせて材料を加工します。で、金型に材料を仕込むと。ここでプレスをしながら最終的に伸び縮みしても安心してお使いになれる製品を作るというのを行っていきます。これらの工程を並べていきますと食品という話をさせていただきましたが、例えば、たい焼きだとか、たこ焼きだとか、あやうものと基本的にやっていることは一緒です。原材料はゴム製品になる伸び縮みしても使える原材料を使っているだけで、たこ焼きの材料だろうがたい焼きの材料だろうが基本やってる工程は、実はこの工程でいくと同じになります。最終的にそのものがお客様から要望にかなっているのかということをしっかり検査しながらお届けするというのでやってるのが我々の業界の仕事工程になります。それをいろいろな材料を用意していろいろな業界に展開していくと、例えばラケットとか、もしくは医療用の点滴用のバックに使われるような、もしくは注射器の先に使っているようなものだったりというように変わってきます。冒頭で話をさせていただいたタイヤ屋さんも基本あやう工程をタイヤのスケールにただけでやることは同じです。これはゴム業界の加工工程ということになります。繰り返すようになるんですが、我々はタイヤ屋さんやベルト屋さんのようにそういう大きな軸を支えているところを回りからサポートするゴム会社になります。そんな「朝日ラバー」です。ここ工場4棟で280人くらいこの地域からお預かりさせていただいております。7割くらいの方はこの地域の方になります。是非ともこれからもしっかりと続けられるように会社一丸となって頑張ってい

りますので、是非ともよろしくお願いたします。
つたない話ばかりで申し訳なかったんですが、今後ともよろしくお願いたします。以上でございます。ありがとうございます。

○質問コーナー

Q.朝日ラバーの製品はラケットくらいしか思いつかないんですが、どういうものがありますか。

A.すいません。今日は製品説明は止めようと思って来てたんですけど、会社の宣伝になって申し訳ないんですが、我々の製品は自動車の照明のバックライトです。自動車産業が70年代よりデザインを求めてスーパーカーみたいにかっこいい車が欲しいと、室

内空間になりますメーターとかオーディオとか、あそこをいろいろライト付けていただくと緑とか赤とか白とか光が光るんですが、あそこのバックライトを我々担当してます。これです。この緑のLEDのゴム。医療用のもので何がどこで使われているかここで貢献しているかと申しますと、病院に行きますと点滴をされている方いらっしゃるかと思いますが、そこのパックの先にゴム付いてまして、そこに針を刺して管を通して手に点滴、輸液が入ってくると。その入口のゴムをやってます。注射器の先に付いているゴム。あそこのゴムもやらせていただいています。業界の中であんなのはちっちゃいほうなんですけど、そんなところでやらせていただいているのが我々の朝日ラバーになります。ありがとうございます。

2019-2020年度
国際ロータリー第2530地区県南分区
インターシティーミーティング

2月9日(日) 母畑温泉八幡屋



- 新人セミナー・IM参加者
中目公英 大住由香里 鶴丸彰紀 大竹憂子
上杉謙太郎
- IM参加者
関谷亮一 前原俊治 吉野敬之 鈴木孝幸 堀田一彦
兼子聡 渡部勝也 永野文雄 阿部克弘 齋藤孝弘
山口治